

東京大学大学院准教授

恒次祐子博士 講演会

「地域材利用の必要性」

開催日時：2月6日(火)午後2時

開催場所：香取市佐原中央公民館3階 視聴覚室

経験的にも森林、木材には癒し効果があると言われてます。例えば国産材の杉・桧の香り、手触りが人に癒やし効果があるということ、見るだけでも癒やし効果があること、そんな木材を使って生活していると癒やし効果だけでなく免疫力も上がること。

そんな効果を杉・桧に含まれる「α-ピネン」「リモネン」という成分の研究から科学的に実証されているのが東京大学大学院准教授の恒次祐子博士です。

博士は森林の木材利用が地球温暖化抑制になるという研究もされてきました。そんな博士の講演会です。

恒次祐子博士は同大学院で物理木材学の研究をされておりますが、過去の博士による市民対象の講演をみると、市民に分かりやすくかみ砕いてお話をして戴いております。この講演から「地域材利用の必要性」が分かってくると思います。



主催：香取市木材協同組合

問い合わせ：香取市木材協同組合 ☎0478-50-5700

恒次祐子博士 プロフィール

研究テーマ①生理応答を用いた環境の快適性評価

②木材利用による地球温暖化防止効果の定量的評価

経歴 東京都生まれ

1997年 東京大学農学部林産学科卒業

1999年 東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程修了

1999年 農林水産省 森林総合研究所入所

2010年 国立研究開発法人森林総合研究所主任研究員

(併任千葉大学大学院園芸学研究科連携客員准教授)

現職： 東京大学大学院准教授

学位： 工学博士

